



展示用の木製ハンマ2輪と守谷和夫氏

檜材と桐材を使った木製車輪

芸術作品として佐原 / 都内で展示

(有)守谷建具（埼玉県所沢市） / 佐原みらい運河(株)（千葉県香取市）

長年の確立した技術として、先代の技を受け継いで製作を続けることが多い木工・建具業界において、守谷インテリア木工所（有守谷建具店 所在地：埼玉県所沢市、守谷和夫代表）は、無垢材を使ったドアや特注品の建具・木工家具等の製作において、物性を理論化して製造に取り組んでいることから、業界では珍しい事業者として知られている。

今年4月には、アート作品の部材として木製の車輪を納品することになった。千葉県香取市で開催される佐原の大祭の山車に用いられる地元でハンマ

（半間）と呼ばれている木製車輪である。高さ9m、重量4トン超の山車を動かす直径約90cmほどの大きさのハンマをモチーフとして、約2倍の大きさ（直径1.8m、厚みは270mm。1輪あたりの重量は約80キロ）とした。表面には実際の山車で使われるハンマと同じ材質の檜材を張り、芯材には、搬入が容易になるように、桐の集材材を用いた。桐素材で軽いので成人男性1人の力でも起こすことができる。製作には、「朝5時半からはじめて、25日間で間に合わなかったから、大体1か月かかった」（守谷代表談）とのこと。